

令和2年度 学校評価報告書

学校名 三田市立武庫小学校

1 学校教育目標

学びあい 認めあい 高めあう 児童の育成

2 今年度の学校重点目標

- 「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業の展開
- 学びを保証する教育環境整備
- 規範意識や道徳性を育む教育の推進
- 「共生」の心を育む教育の充実
- 子どもの体を育てる教育の推進
- 体力・運動能力向上をめざした教育、運動を好きになる教育の推進
- 特別支援教育の推進・充実
- 教職員の資質向上
- 地域とともに歩む学校づくりの推進
- 業務改善・校務のスリム化による勤務時間の適正化

3 総合的な自己評価

- ・学習指導については、「主体的・対話的な深い学び」を念頭に置き、算数科を中心に児童が主体的に対話的に学べる授業を構築することに取り組んできた。対話的な活動が困難な中、吹き出しやペアトークの活用を試みながら、児童が主体的に学べる環境づくりを推進した。
- ・「地域とともに歩む学校づくりの推進」については、学校地域運営協議会において、児童の実態を交流することに始まり、育てたい児童像を共有する等、単なる学校評価にとどまらず、ともに学校づくりを推進するための一歩が踏み出せた。
- ・問題行動、不登校については発生件数が多い。子どもの心に寄り添い、家庭、地域との連携のもと、計画的かつ組織的に、「チーム武庫」が一丸となり指導を進めているところであり、今後もそうする必要はある。

4 総合的な学校関係者評価

- ・コロナ対応で大変な中、学校が組織的に子どもたちを育てようとしていることがよく伝わってきた。子どもの育ちは学校だけでなく、家庭や地域においても取り組むべきことがある。それぞれができることを確かめながら取り組んでいきたい。
- ・子どもの成長についてはゆっくり長い目で見ていきたい。「こうあるべき」で考えられないことに目が行きがちになる。試行錯誤しながらプラス面を見て、伸ばしていきたい。
- ・臨時休校でスタートした中、子どもたちのことが心配であったが、どうにか順応できているようで安心した。これからも地域として最大限サポートしていきたいと考える。学校から出せる情報があればぜひ共有したい。
- ・学校とともに、明るく元気よく、人のことがわかる子、未来を生き抜く力を育てていきたい。

5 評価結果

分野・領域	自己評価			学校関係者評価
	評価項目 (取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
道徳 人権教育	・年間指導計画に準じて指導を行う。	コロナの影響で出だしは遅れたものの、計画に沿った指導が展開できた。	他の教科や領域、学校行事等との関連性を考慮しながら、さらなる内容の定着を進める。	児童の落ち着きについて学校の取り組みを評価する。
	・自尊心の高い子どもを育成する。[わたし]	1 割弱の児童が自分の良いところを見いだせていない。コロナ禍で活躍の場が少なく、評価される場がなかった。	学級活動や学校行事をはじめとした特別活動の機会を充実させ、達成感を持たせる。	「自分にいいところがある」と答えられなかった児童の背景を探る必要がある。保護者の見方と合わせて考えることも必要。
	・差別を許さない、他者を大切にすることを育成する。[あなた・みんな]	ほぼすべての児童が友達を大切にできていると感じている。	「友だち」のとらえ方が「仲よし」ではなく、「他者」に広がるよう、仲間づくりを進める。	引き続き、児童の関係をつなぎ、よりよい関係を構築してほしい。
研究推進	・主体的、対話的で深い学びが実現できる授業を構築する。	コロナの影響で「対話」が難しい部分があった。	「対話」のあり方について多様な方策を用い、意見を交流する場を設ける。	コロナ対応で難しい部分もあるが、引き続き対応を願う。
	・児童の学力を向上させるための手立てを考え実践する。	家庭学習について、児童と保護者のとらえ方にずれが見られた。	家庭での学習に何を求めるのか、保護者との連携を含め対応していく。	家庭での学習については、内容が保護者に伝わっていないこともある。連携を願う。
	・研究実践を評価し、多様な教科領域に生かす。	リモートを活用し校内研究推進を図ることができた。	タブレットを授業改善や校内研究会に積極的に活用し、良い授業を創る。	新たな教育への対応してもらっていることに感謝する。大変だがよろしく願う。
生徒指導	・教職員は生活指導の方針を共通理解し、指導に温度差なく「チーム武庫」として指導にあたる。	多忙化により、共通理解が難しい部分があった。	会議の精選、業務内容のスリム化をさらに進め、時間を生み出す。	教職員の協働が見て取れる。引き続きチームとしての対応を願う。
	・保幼中や地域、関係機関との連携を図る。	丁寧に連携を図り、情報共有に努めることができた。	現状通り、こまめな連携を継続する。	あいさつ運動等、地域との連携もさらに充実させていきたい。
	・本校の「いじめ防止基本方針」にのっとり学校全体で組織的な取り組みを行う。	組織的対応を行い、いじめの解消に取り組めた。	問題行動を少しでも早く把握し、対応できるように、組織的な児童理解に努める。	問題行動の減少に向け、地域の教育力も活用しながらともに取り組んでいきたい。
家庭・地域との連携	・保護者や地域の思いや願いを把握する。	コロナ禍により、学級集会等が開催できなかった。個別対応で保護者の声に対応した。	会の開催等が困難な状況において、保護者や地域の願いを把握できるように、日ごろの関係性を大切にする。学校運営についても地域の願いを取り入れる。	ホームページや学校地域運営協議会にて情報発信をしっかりともらった。制約がある中でも、さらに連携を充実させるとともに地域としても学校をサポートしたい。
	・コミュニティ・スクールの充実を図る。			
	・地域と連携・協力した取り組みを積極的に進める。	コロナ禍により、地域の教育力活用について制限があった。できる範囲で取り組むことはできた。	教育活動において必要な支援をコーディネーターと連携しながら取り組んでいく。地域人材の発掘も含めさらに推進していく。	子ども達にいろいろな出会いを体験させ、視野を広げてやりたい。そのために地域としても人材を発掘するので、積極的に活用願う。
	・地域の人材を積極的に活用する。			

6 学校自己評価の実施状況について

時期	内容
12月	教職員アンケート (学校の運営について62項目)
1月	児童アンケート (学校生活・家庭生活について24項目)
1月	保護者アンケート (児童の育ち、学校の様子について13項目)

7 学校関係者評価委員会の活動について

時期	内容
7月	第1回学校関係者評価委員会 (委員委嘱・学校評価の趣旨確認)
12月	第2回学校関係者評価委員会 (学校評価の方向性の報告・検討)
3月	第3回学校関係者評価委員会 (学校評価結果の検討)

※学校自己評価・外部(児童生徒・保護者・地域等)アンケートの実施を含む

8 学校評価の公表について

時期	手段	内容	添付
随時	学校だより	学校評価の結果及び今後の改善策を記載、かつ保護者に配布。	
随時	学校ホームページ	今年度の学校評価の結果及び今後の改善策を記載。	